

観音さまの信仰について

観世音菩薩=あるいは観自在菩薩、訳して観世音、観音さまと呼んでいます。誰でもすぐにあの典雅なやさしいお姿を描く、そしてながら、慈悲の権化として観音さまを拝むのです。今日世間では数多くある仏さまのうちで恐らく観音さまほど知れわたり、一般に信仰されている仏さまはないと思います。

観音さまの信仰のよりどころ、「妙法蓮経観世音菩薩門品第二十五」で、略して「法華経」その中に「普門品」で、観音さまの本願である利益をあますところなく説いています。そのためこの部分を「観音経」と呼んでいます。

観世音というのは、観は観照で観るであり、眼で観、耳で観、鼻で観、舌で観、身で観、意で観るといった調子で六根融通することを観照ということであります。世音とは世の中の音声ということであるから、差別ある世間の苦しみの音声を聞いて、可哀想だ捨てておけない、救わなければならないという慈悲の結晶が観世音菩薩であります。それであるから救済するために種々なる方法を講ぜらるることを善門と申します。

善門品に説く観音さまの特性を経「善男子よ、若し無量百千万億の衆生があつて、もろもろの苦悩を受ける場合、この観世音菩薩の名を聞いて、一心に観世音菩薩と称えるならば、観世音菩薩は即時に衆生の凡てを苦悩からのがれることが出来るであろう」ということと、観音さまが三十三種に化身して法を説くと記されています。仏・髻支仏・声聞・梵王・帝釈天・自在天・大自在天・天大將軍・毘沙門・小王・長者・居士・宰官・婆羅門・比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷・長者・婦女・居士婦女・宰官婦女・婆羅門婦女・童女・天・竜・夜叉・乾闥婆・阿修羅・伽楼羅・緊那羅・魔ご羅伽・執金剛神、これが観音三十三身説であつて、三十三観音應化に進展したのだと考えられます。

いなわしろ三十三観音の安置仏



第一番

聖観世音



第二番

子安観世音



第三番

十一面観世音



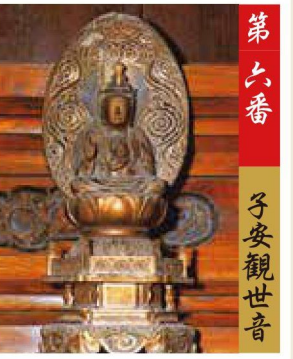
第四番

子安観世音



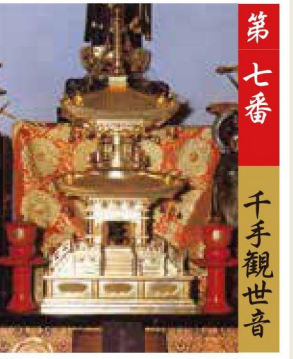
第五番

如意輪観世音



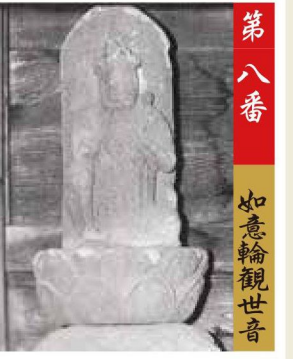
第六番

子安観世音



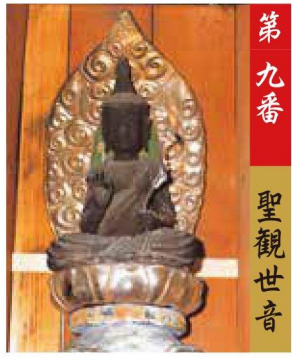
第七番

千手観世音



第八番

如意輪観世音



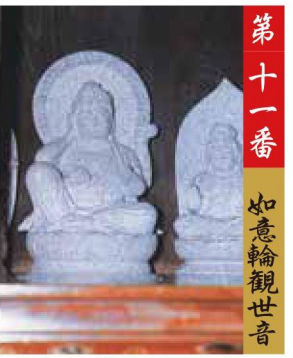
第九番

聖観世音



第十番

准てい観世音



第十一番

如意輪観世音



第十二番

馬頭観世音



第十三番

馬頭観世音



第十四番

如意輪観世音



第十五番

如意輪観世音



第十六番

千手観世音



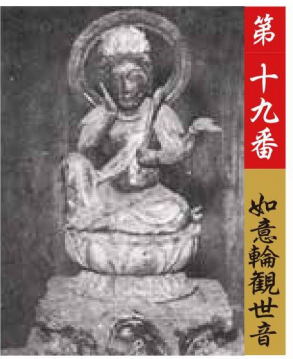
第十七番

如意輪観世音



第十八番

如意輪観世音



第十九番

如意輪観世音



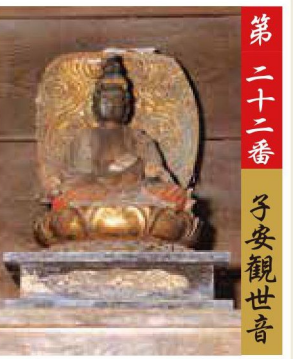
第二十番

子安観世音



第二十一番

如意輪観世音



第二十二番

子安観世音



第二十三番

聖観世音



第二十四番

聖観世音



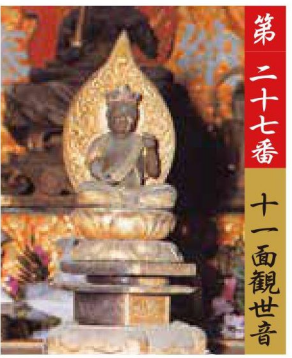
第二十五番

子安観世音



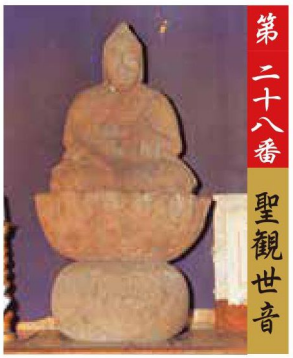
第二十六番

子安観世音



第二十七番

十一面観世音



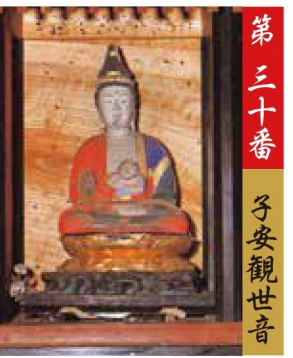
第二十八番

聖観世音



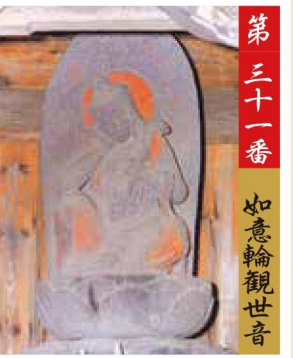
第二十九番

子安観世音



第三十番

子安観世音



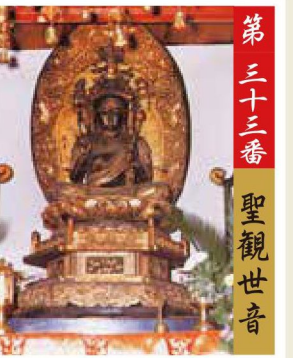
第三十一番

如意輪観世音



第三十二番

如意輪観世音



第三十三番

聖観世音